〔一〕　第三千四百八十一號　〔日曜日〕　磐城新聞　昭和七年七月十七日　〔第三種郵便物認可〕

夕刊
磐城新聞
七月十六日發行
定價一ケ月金六拾錢（郵税共）　一部金五錢
廣告料金　一段一行金壹圓　二段一行金六拾錢　三段一行金四拾錢
發行所　磐城新聞社　福島縣磐城郡平町大字地蔵堂字田町十六番地
（日曜祭日翌日休刊）

童話　幸平ちいさんと馬車　中

千葉省三

けれどラッパはもう二度とならなかつたし、日のあたつた白い街道には鶏が餌をさがしてゐるだけで、いつまで待つてゐても馬車の姿なんか見えてこないのだつた。

『いつて見ッか、爺んつァの家さ！』

そんなときおれらは誰云ひ出すとなく、連れ立つて幸平ちいさんの家へ行つて見た。

幸平ちいさんの家は、宿のはづれの小さい板葺の家だつた。土間に大きな爐が切つてあつて、幸平ちいさんはたいていその爐端に蓆をしいて、竹籠をあんだり手箒をつくつたりしてゐたおきよといふ、鼻汁ッたらしの孫娘と二人暮しだつた

『おきよ！爺んつァゐッか！』

門口の羽目板によりかゝつて、爪をかんでゐたおきよがコクンとうなづく。

『爺んつァ！』

『ホイ！』

『ゐら、ゐら』

おれらはドタバタかけこんで、爐傍にある長い板のこしかけに並んで腰をおろす、このこしかけは先には馬車を待ち合はせるお客の腰かけだつた。

『爺んつァ、ハア馬車ゐ出さねんけ』

『出さね！』

『なんで？』

『なんでッちこたね、おらも馬車もくたびれたかんなつてここらで一休みッちとこさ！』

『だめな爺んつァだなぁ』

『だめにもなんにも！』

たときやあ、おれの馬車さ乗つて來たんだぞ。いゝ嫁さまだつた——助の父が兵隊さ行ぐときも、おれの馬車で送つてやつたもんだ——古いもんだかんな、あの馬車も——村中で、おれのの馬車の厄介になんねもな、ひとりもあんめ——おめえら、知んめが大川の橋がかゝつた時さ、賑やかだつたなあ、あん時あ。なんしろ尺玉の花火があがつたんだ河原さ筵据ゑてなあ——そん時なざ、あの馬車さ紅白の布張つて、郡長さまをたのせまうしたんだぞ!!!』

『ほんとけ、ほんとに郡長さま乗せたんけ』

おれらはびつくりして聞た話だの、宿の街道を二匹きかへす。

『ほんとだとも、今ぢやあの手負鹿が馳けてとほつたのを、台山の下で追ひつめんな汚ねえ車ンなつたがあて捕つた話だの、大日様のんでりつぱな働きして來た御手洗に、大きな鰻がはいつてゐた話だの……、そしておしまひには、きつと自分のトテ馬車の思ひ出話しをはじめた。

『——安のおつ母、嫁に來

時代警語

○快樂の心は上帝道に於て十分の九を占めたり……（ビショップ）

抑も人生の高上なる快樂は其心公明正大にして敏快に功を成し得る一つの要素である而して其他自ら力を奮ひ自ら信任する等の好成質はこの快樂の中より生ずるものである……

潮聲視靜抄帳　（六月集）　16

鶏飼　岡本機柳特撰

佳章

舟ゆれに鵜篝川にくつれけり　芳月
たくみなる鵜繩のさばき岸にきく　鶴歩
鵜舟揚れは闇路は雨となりにけり　文狂
朝川に漂ふや鵜の篝屑　瀬鳴
りして籠のあり鵜のたけり哉　松堂
疲れ鵜の羽つくろひする舳かな　鵜篝の火屑落ちたる水面かな　武門

磐城歌壇　平井一夫

○陰橋や夜を來て立てば停車場は燈輝き都路のごと
○陰橋の下の石間に生ふる小き草の花もちたるが風にひた搖る
○坂となれば汽車は煙をふき上げて陰橋のすゝい目にしるきかも

『ほんとだとも、今ぢやあ』

『ほんとだとも、今ぢやあ』

『ほんとだとも、今ぢやあ』

昨日鑛山監督局長に石炭運賃半減の陳情

常磐代表十數名が大擧出仙

不振のドン底に喘ぐ地方の大小炭鑛が唯一無二の打開策として其筋に石炭運賃値下げの猛運動を續けて居る旨農報の如く該問題は今や極めて重大案件として當路の關心を唆りつつあるが昨十五日は一部小炭鑛經營代表者十數名が大擧して仙臺鑛山監督局を訪れ常磐石炭鐵道運賃値下期成同盟會の名を以て血みどろな理由を具し五割値下げの陳情をなした、由來常磐炭鑛の現狀は過ぐる議會に右運賃値下げ問題が建議せられ、當時提案者として鈴木辰三郎代議士が去月十三日の本會議に於て試みたる提案理由說明（官報速記錄）中にも

――常磐炭は之を最も多く消費する大東京に近く輸送上地の利を得て居る關係上一時非常に發展してその墓に詣で午後一時かたのでありますが最近海運賃が非常に低落したるに拘らず鐵道運賃は依然として鐵道省が大正十年將軍の恩師である伏見町長最も高率なる引上げを行つた儘今日尙ほ且つ引き下げを爲さないのであります、故に鐵道運輸の一途によるものは殊に常磐炭の如きは其の販路が非常に縮少されたのであります、之と反對に海運による所の撫順炭其他のものは是は非常に有利となつたのであります。でこの常磐炭鑛が如何に衰亡したかと云ふ一例を述べて見ますと大正九年に東京に入りました石炭の總高は二百九萬七千噸でありました、けれども其の中の四割卽ち八十四萬噸は常磐炭であつたのであります。然るに昭和六年の今日になりましては僅に二十三萬噸、一割に減じたのです。而して今日となつて尙且減退の狀態に在るのであります。斯くの如く販賣高の減少に伴つて是が從業員坑夫の如きも大正九年には坑夫のみが三萬人居つたのでありましたが、隨つて家族とも十五萬人も居つたものが今日は僅に一萬人家族合せて五萬人になつたのであります。（後略）

等の陳情に對し鐵道及關係當局が果してどの程度の同情的措置に出づるかは問題の性質が關係者の生死を制する迄に重大なる內容を有してゐるので非常な緊張味を以て成り行きを刮目されとある如く其の窮狀が如何に深刻なるかは蓋し想ひ半ばに過ぐるものあるので之を以て市長鈴木文次郎氏から表彰狀と金盃一個を贈られた

行は昨十五日出福縣補助申請に關し縷々陳情する處あつた

水戸市が江口氏表彰

金杯一個を贈る

堀江工業會社江口忠一氏は一圓で入會資格に制限ない建設工事を請負ひ極めて優秀なる出來榮ゑを以て引き渡しを終つたが昨十五日付

土木事業によつて

「當面の口糧を求む」

悲慘な鹿島の突破策

何れ疲弊困憊ならざるは無滯納し一部では薯粥を啜つき郡下農漁村中殊に鹿島村は糊口を凌いで居るものは四年前大火災に裸一貫となつたに加へ農產物の第一賣り場であつた小名濱、江來村會を開いて打開策を考名等が今春來の不漁から同究中であつたが結屬鈴木代村の被る影響は可成り大き議士等の力により土木事業く爲に愈々窮乏するばかりを起すべく陳情の實行運動で村税を筆頭に租税公課をに入る事となつた

受驗準備夏期講習

例年通り磐中同窓會で主催

磐中同窓會主催第七回受驗準備夏季講習會は二十三日より來月六日まで磐中に於て行ふが講師左の如く會費

萬一之の天候が續くと免れ難い米の三割減收

專門家の間に早くも悲觀說

今年もあと二三日で土用に入る。元來なれば土用に入る十日前頃からカッと照りの天候が一週間も續く場合出し、愈々土用の聲を聞いは約三割の減收は免れまいて本格的の夏となるのが當と專門家の間には早くも悲り前であるが昨今の模樣では今明中カラリと霽れ上る見込は一寸つき兼ねる、恁うした陰鬱な天候が續いたく氣溫の低下を見た事と害結果比較的雨量の少なかつ虫の發生並びに稻病による結果と云はれてゐる以上從來の天候關係から軟弱に育

豐間港續工計劃

村と漁業組合が昨日縣補助申請

豐間漁港は昨年七月中地元に進涉し大体來月末迄に竣功するに至つたが組合では資融通を受け平町堀江工業更に工費廿三萬圓を以て工請負ひ今年九月下旬竣功事を續行する事に決し鈴木の豫定であつたが工程意外村長を始め馬目組合長の一

滿洲行

藤田中尉（第廿七信）

川島中隊長の決心

その情報に接した川島大尉は躊躇なく獨力攻擊と決心したのです。隨分亂暴な決意だとも思はれますがこの場合こうするより外道はなかつたと思ひます。顏に泥を塗られ唾され而して薯尉は徒らに兵力の多寡や勝敗等を顧慮し逡巡する秋ではなかつたのです。

北大營の平時兵力は一萬二千ですが張學良が一部を北京行に引具して居つたので當時は大凡八千から一萬位精鋭なる新兵器も備へて居つたのです。無謀にも近い川島大尉のこの決心當面の隊長として私はどんなに嬉しかつたか知れないのです

奉天の大隊本部と其夜の私

虎石臺の第三中隊から大隊本部に電話報告があります

私は其夜は遠來の客があつて大和ホテルの宴會場に出席して居たのです。いつ擊され苦戰中だとの話、私は直ちに身仕度をして屯營に向つたのです、島本大隊

川島中隊長

その時の川島中隊長は直面しては徒らに兵力の多寡や勝敗等を顧慮し逡巡する秋ではなかつたのです。

念々明十七日

植松少將講演會

英姿颯爽晴れの平入り

植松軍少將は明十七日午前十一時三十三分平驛着磐越線上り列車で來平驛前沿に堵列する各種團体、男女中小學校生徒、町有志約三千餘名の歡迎を受け直に廣島村に上海の戰死者鵜沼海軍一等兵の遺族を慰問してその墓に詣で午後一時から小名濱町小學校の講演を了し午後三時から平署會議室で講演する豫定であるが將軍の恩師である伏見町長はその當時を追憶して語る

私が鹿島小學校に教鞭をとつて居た當時明治二十三年から六年まで四年間一年生から四年まで教へたがその頃から腕白なところがあつて他人と異つた負けぬ氣の性格であつた、先年來小名濱に驅逐艦が入れる樣になつたのは將軍の盡力に依るものでそんな關係から今度も忙しい時間をさいて態々小名濱に行く事となつたのである。云々

鮫川疏水實地踏査

技術者の來郡を前に臨時總會で準備協議

古川前縣議の献身的努力により總工費三十八萬圓內國庫補助半額で復活に決定した鮫川疏水は來月中旬縣耕地課から技術者來郡實査を遂げる事になつたので愈々年內に工事に着手される見込みであるが組合では近く臨時總會を開き諸般の準備に就て打合せをなす

受驗準備夏期講習

磐中同窓會で主催

ラヂオ調査票

先般ラヂオ聽取施設者に配付の『ラヂオ調査票』は放送協會に於て放送種目の大衆化と滿足を與へたい目的で全聽取者の意見を尊重する爲の試みなので稍々好轉した爲これに刺戟を受け相場は果然高値を示し今月上旬迄一貫目一圓十五錢位で取引されてゐたものが十六日の相場は一圓三十五錢となり一躍二十錢高となつたので養鷄家はホク

出來榮え見事な神谷のメロン

來月上旬頃熟成

農試神谷分場のメロンは今年は特に力を入れ株數を增し新式兩屋根溫室內に栽培中であつたが成績極めて良好で來月上旬成熟の豫定で行する事となつた

諸口十九、松平美子の一行

十八日から平館で

實演

鷄卵騰貴の氣配

貫當り廿錢高に

北叟笑む地方當業者

石城地方に於ける鷄卵相場は昨冬來安値を持し養鷄家は極度に悲觀してゐたが昨更に尻上りするものと豫想されてゐる

遲延三百名

磐中の月謝成績

磐中の今月謝は昨十五日で締切なのだが三百名からの未納あり二十日終業式なので大童で整理中だと

御嶽山參拜團募集

一、期日　（七月十九日）午前零時五十三分平發準急出發　同日午後三時木曾福島着、山麓一泊（二十日）登山御嶽山上一泊（二十一日）下山一泊（二十二日）平歸着

一、會費　金貳拾五圓也（當日持參の事）

一、申込　十八日正午迄內郷村白水、杉山今朝吉及磐城新聞社

御嶽山參拜團主催者

模範校　神谷

草野小學校は郡內一の模範校として知られ參觀視察する者が常に絶えないが曾て郡擔任の縣視學だつた津田平第二校長も語る

同校の教師と生徒の精神融合は全く感心させられる教師は六時から出勤し

平商生がキャンピング

十集團をしてキンプ生活をなさしむる筈で場所は自由だが主に小名、四倉、新舞子等の海岸地が多く衛生風紀に就て嚴重注意をなすと

平商では夏休中野營訓練を目的として二十一日から來月二十日頃迄

傳染病注意

勿來町で印刷物配付

勿來町では此の程左の加き傳染病豫防に關する注意書を町內各戶に配布した

一、身体を健全にし特に胃腸を强くしませう

二、野菜や魚を流れ川で洗ふのを止めませう

三、病氣の際は醫師の診察を受け早く手當を受けませう

四、互ひに傳染病を傳播する蠅を取りませう

五、腸チブスに罹つても恥ではありません

六、腸チブスに罹つた時は傳播しない樣注意しませう

七、近所に疑はしい病人がある時は警察署又は役場へ知らせませう

御嶽參拜團

主催杉山今朝吉氏

內郷村白水杉山炭鑛主杉山今朝吉氏は信仰心厚き篤志家として年々の參拜は勿論常住座臥敎旨の信奉に餘念無い士であるが今回下記廣告の如き參拜團を計劃し目下希望者の募集中であるが一行には杉山炭礦主をはじめ同鑛及附近二三炭礦の代表も加はる筈である

署へ暴れ込む　當時住所不定平町七丁目元志賀飯場居住猪越三郎（二八）は昨十五日午後十時頃泥酔して平署へ暴れ込み檢束された

團員木曾艦見學　平町六七丁目青年分團では廿一日木曾艦見學のため小名濱に行く

磐女選手推薦式　十八日午前十時から擧行

濱三郡敎員庭球大會　二十八日正午から磐中コートに開催されるが優勝候補は昨年の優勝組好間の

鈴木、中山を始め準決勝迄

雨練習を阻む　平商では十日、磐中は昨十五日から何れも野球の合宿練習に入つたが雨の爲練習出來ず悲觀してゐる

平商衛生講話　十八日午前九時から

曾我校長應聘　東白河郡敎育部會では明十六日の總集會に郡出身の名小學校長三名を招いて敎育振興に關する講演を依頼するが曾我第一校長は其の一人として招かれると

平區罰金一束

怪しからぬ侵入　双葉郡浪江町植木職松本正一（一九）同北野芳美（一九）何れも假名は昨年八月中浪江町製糸工場女工寄宿舍に侵入し各罰金二十圓

潜り桂庵　湯本驛前七號地根本二三（三）は三月中旬から五月迄無免許で橋本ツルヨ外三名を周旋し三十圓

オール赤字の昨今

珍しい植田驛の增收

去月中の貨物出入統計

植田驛去月中の發着貨物は發送千二百三十一噸到着五百二十九噸で前年同月に比して發送三百四十噸、到着五十六噸を增し之れが收入五千四圓三十九錢も前年より二百二圓十七錢の增加を示へ出席二十名であつた

校外監督協議　平町中、小學校校外監督協議は昨十五日午後二時から平商に開催したが署長驛關係等を加

賭判定廣告
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

舊暦　六月　十四日　日曜
己卯　先勝　昇宿　成
七月十七日

▲一白の人　幸運の日萬事進展を來たすべく朗店起業吉▲二黑の人　物事滯りても氣を落さず實直なれば好轉す▲三碧の人　動けば災あり靜かなれば平安を保つべき日▲四綠の人　氣運平順なれど勢に乘れば前途に憂ありあり▲五黃の人　悅樂當すれば悲あいを生ず又多辯を戒むべし▲六白の人　深えんに潜める龍の如し時を得れば昇天せん▲七赤の人　慾引のじ由な失ひ雖局を打開すること能はず▲八白の人　希望をつらぬかんとするも寸進尺退の傾向あり▲紫の人　鋭刀は切れ味凄けれど折れ易し病難亦注意